

## 横浜市における母子間感染の予防

国立公衆衛生院・疫学部

母里啓子

協同研究者：横浜市衛生研究所

野口有三

愛児センター

大川尚美

済生会横浜市南部病院 森 哲夫

要約 昭和61年1月より開始のHBウイルス母子間感染防止事業によればHB e 抗原陽性の母親から生まれた新生児は臍帯血の検査で陽性を示した者は5人、児より再採血の結果、内3人は母体血による汚染であり、胎内感染によるものは2人であった。さらに経過追跡中、第2期（生後2ヵ月）の検査でHB s 抗原陽性の早期陽転例は2人であった。なお6ヵ月以上経過した52人へのワクチンの追加投与は昭和62年10月迄の集計では延べ26回である。

横浜市では昭和59年10月より全妊婦を対象としたHB s 抗原検査を事業化し、試行的に愛児センターにおいて感染防御処置をおこなない、昭和61年1月からは国の事業に一部上乘せをし、より良い効果をあげる事を目指している。HB s ワクチンの初回投与は、おおむね生後3ヵ月とし、能動免疫の獲得をできる限りはかっている。

横浜市における昭和62年9月末迄の母子手帳から集計した防御対象者数を（表1）に示す。

表1 HBウイルス母子間感染防止対策事業検査集計（横浜市）

期間	HB s 抗原検査				HB e 抗原・抗体保有検査				
	受診者	陰性	陽性(陽性率)		受診者	+/-	-/-	-/+ (eAg陽性率)	
59年度下半期	15578	15483	95 0.61%		77	14	14	49	18.2%
60年度	30677	30485	192 0.63%		189	47	47	95	24.9%
61年度	25936	25685	251 0.97%		230	71	41	118	30.9%
62年度上半期	13369	13288	81 0.61%		72	11	12	48	15.3%
合計	85560	84941	619 0.73%		568	143	114	310	25.2%

この結果から横浜市における母子間感染防止事業の対象者は現在65—60人／年であり、小中学生の調査より今後対象者の減少が見込まれることから、対象児にはきめの細かいフォローを行い、キャリアの発生を防止することが必要と思われる。昭和60年1月からのHBウイルス母子間感染防御措置実績は表-2に挙げたとうりである。昨年報告した愛児センターで行った防御の結果からみると、横浜市が決めた第5期までの基本防御措置ではHBs抗体価が保持されずその後追加ワクチン投与が必要であった者がほぼ1/3をしめていたがこの事業においても6ヶ月以上の追跡出来た者52人にたいして15人に延べ26回の追加ワクチン投与が必要であった。

表2 HBウイルス母子間感染防御措置実績

基本措置終了児に対するワクチン追加投与（第6期）（昭和62年10月まで）

区分 年度	第1期		第2期		第3期	第4期	第5期	第6期(7-24ヶ月)検査							追加 投与延		
	検査HBIG		検査HBIG		ワクチン	ワクチンHBIG	ワクチン	1	2	3	4	5	6	7			
60	7	7	3	3													
61	*42	40	42	40	41	30	23	18	15	11	5						17
			(2)														
62	**35	30	41	41	44	39	40	34	30	25	16	13	7	3			9
	(2)																
合計	84	77	86	84	85	69	63	52	45	36	21	13	7	3			26
	(2)		(2)														

( )内：HBs抗原陽性者数

\*：再検査2人，\*\*：再検査3人

国立公衆衛生院 (The Institute of Public Health)  
 横浜市衛生研究所 (Yokohama City Institute of Health)  
 横浜市愛児センター (Yokohama Aiji Center)  
 済生会横浜市南部病院 (Saiseikai Yokohama City Hospital of Southern District)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 昭和61年1月より開始のHBウイルス母子間感染防止事業によればHBe抗原陽性の母親から生まれた新生児は臍帯血の検査で陽性を示した者は5人、児より再採血の結果、内3人は母体血による汚染であり、胎内感染によるものは2人であった。さらに経過追跡中、第2期(生後2ヵ月)の検査でHBs抗原陽性の早期陽転例は2人であった。なお6ヵ月以上経過した52人へのワクチンの追加投与は昭和62年10月迄の集計では延べ26回である。